



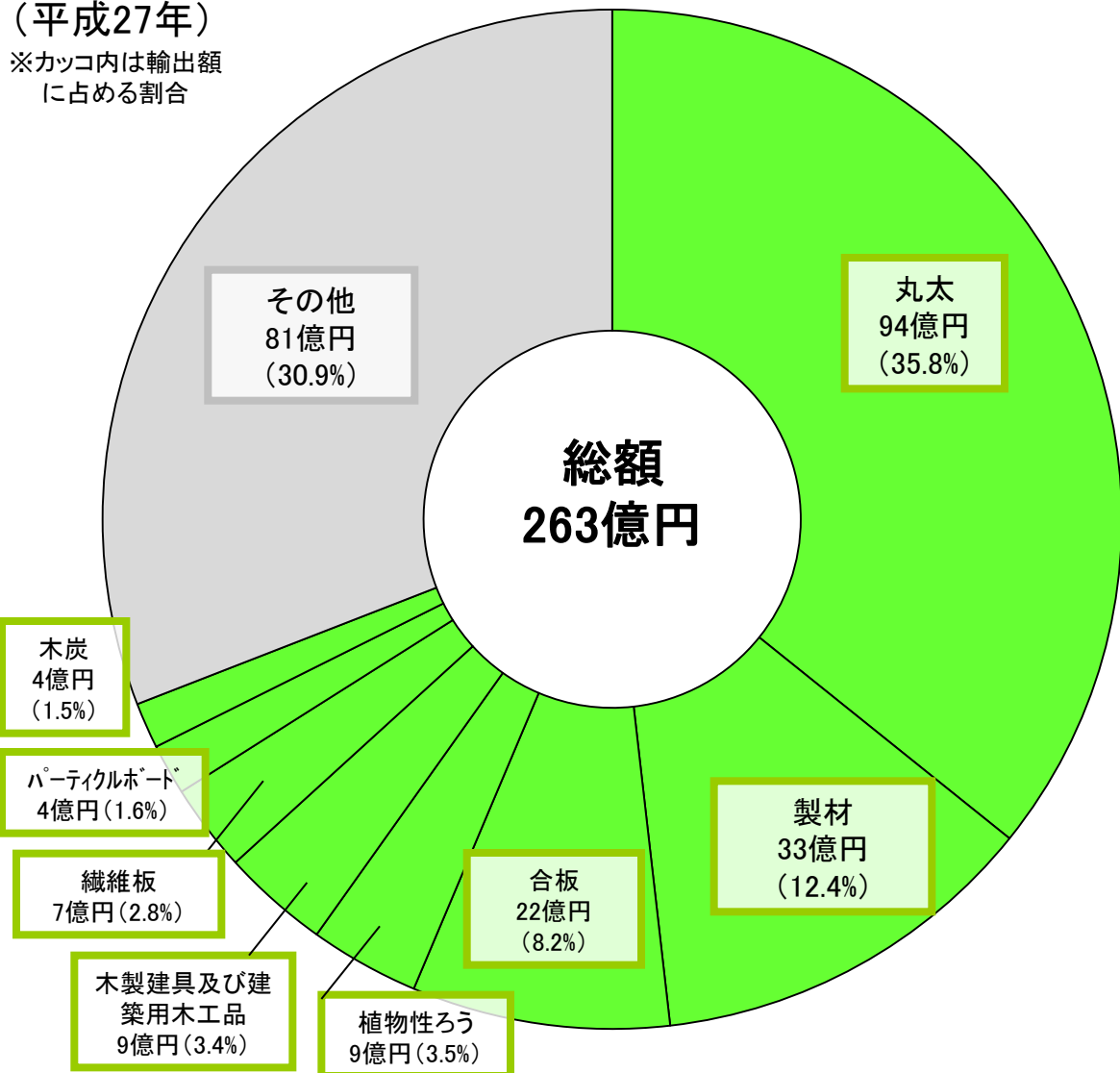
# 林産物の内訳

●林産物の品目別内訳をみると、丸太及び製材の割合が多い。

(単位:億円)

(平成27年)

※カッコ内は輸出額に占める割合



品目名	平成26年	平成27年	増減率
丸太	68.9	94.2	36.6%
製材	31.9	32.7	2.3%
合板	4.6	21.5	366.5%
植物性ろう	9.0	9.2	1.5%
木製建具及び建築用木工品	11.6	8.9	▲23.0%
繊維板	6.0	7.3	21.1%
パーティクルボード	3.0	4.2	40.8%
木炭	2.9	3.8	31.7%
その他	72.9	81.4	11.5%
林産物計	211.0	263.2	24.7%

※「植物性ろう」:用途は、化粧品の材料など。  
 ※「繊維板」:木材・竹・わら・パルプなどの植物繊維を圧縮成形して作った板。用途は、断熱・吸音材、壁パネル・外装など。  
 ※「パーティクルボード」:木材の小削片を主原料として板状に成型した建材。用途は、プレハブ住宅などの床・壁・屋根下地など。  
 ※「木炭」:用途は、お香専用炭(いわゆる香炭団(こうたどん))など。

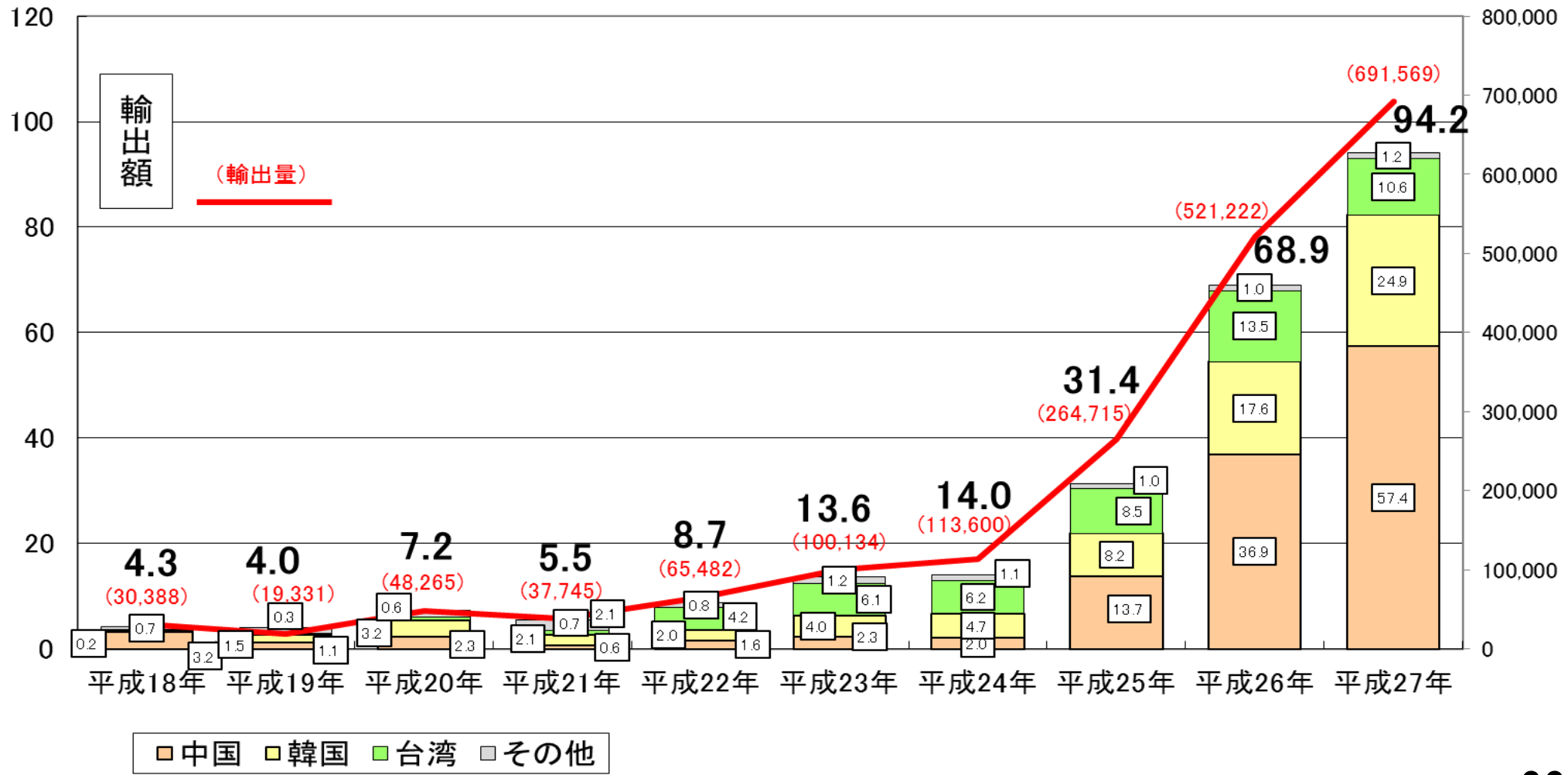


# 丸太の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● 近年、中国での梱包材用、韓国での住宅建材用に需要が高まり、輸出が大きく増加。

(輸出額: 億円)

(輸出量: 立方メートル)



資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

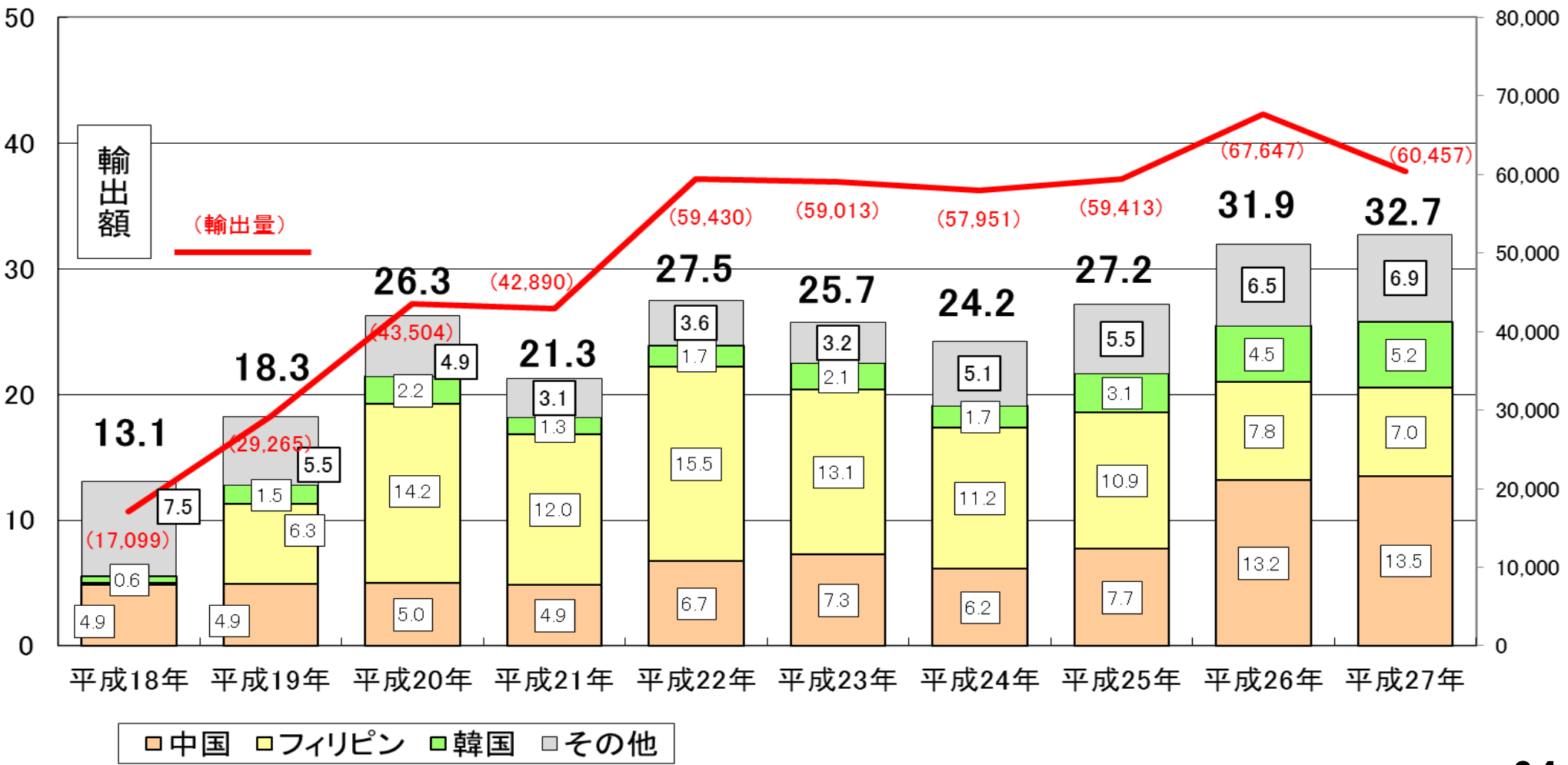


# 製材の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● 製材は、中国、フィリピン、韓国向けで輸出額計の約8割を占める。

(輸出額: 億円)

(輸出量: 立方メートル)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

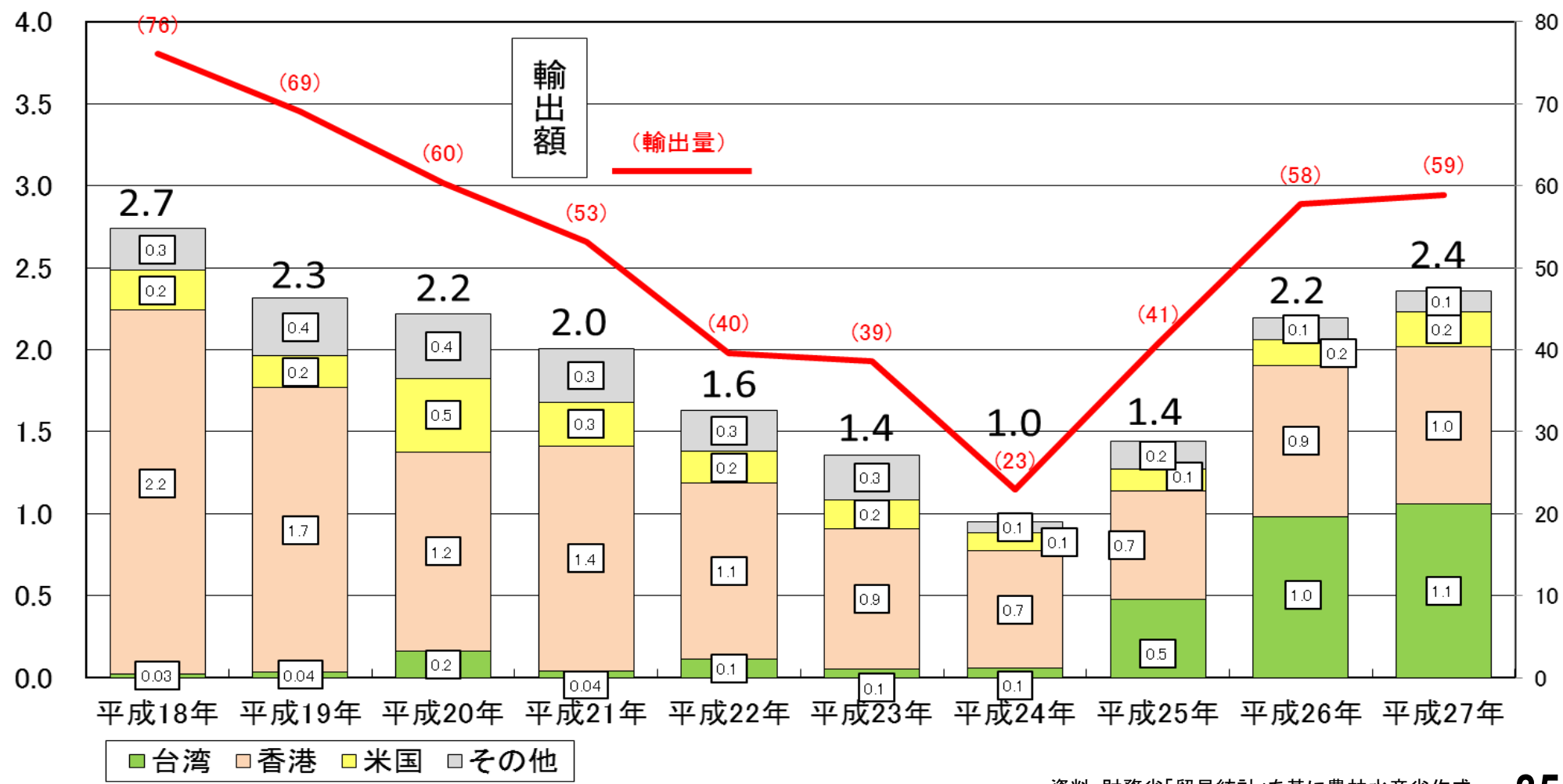


# 乾しいたけの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● 乾しいたけの輸出額は、平成25年から増加に転じ、特に台湾向けが大きく伸びている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)





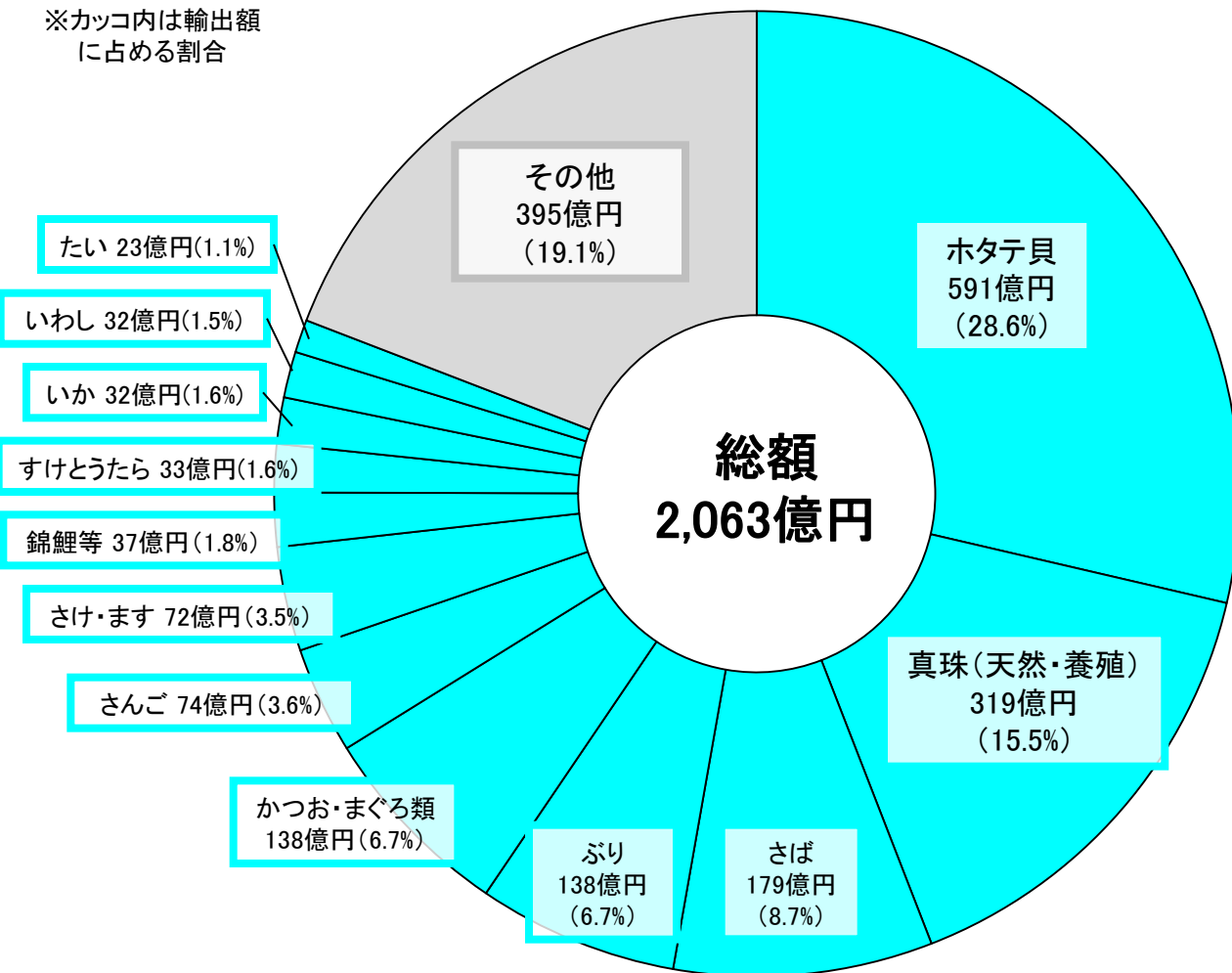
# 水産物(水産調製品以外)の内訳

●水産物(水産調製品以外)の品目別内訳をみると、ホタテ貝、真珠(天然・養殖)、さば、ぶりなどの割合が多い。

(平成27年)

※カッコ内は輸出額に占める割合

(単位:億円)



品目名	平成26年	平成27年	増減率
ホタテ貝	446.7	590.8	32.3%
真珠(天然・養殖)	245.4	319.0	30.0%
さば	115.1	179.0	55.4%
ぶり	100.1	138.4	38.2%
かつお・まぐろ類	157.8	137.8	▲12.7%
さんご	57.2	73.8	29.1%
さけ・ます	114.4	72.1	▲37.0%
錦鯉等	33.1	37.3	12.8%
すけとうたら	46.1	33.2	▲28.0%
いか	33.9	32.0	▲5.5%
いわし	13.3	31.8	138.2%
たい	17.2	22.8	32.0%
その他	333.8	395.1	18.3%
水産物(水産調製品以外)計	1714.3	2063.1	20.3%

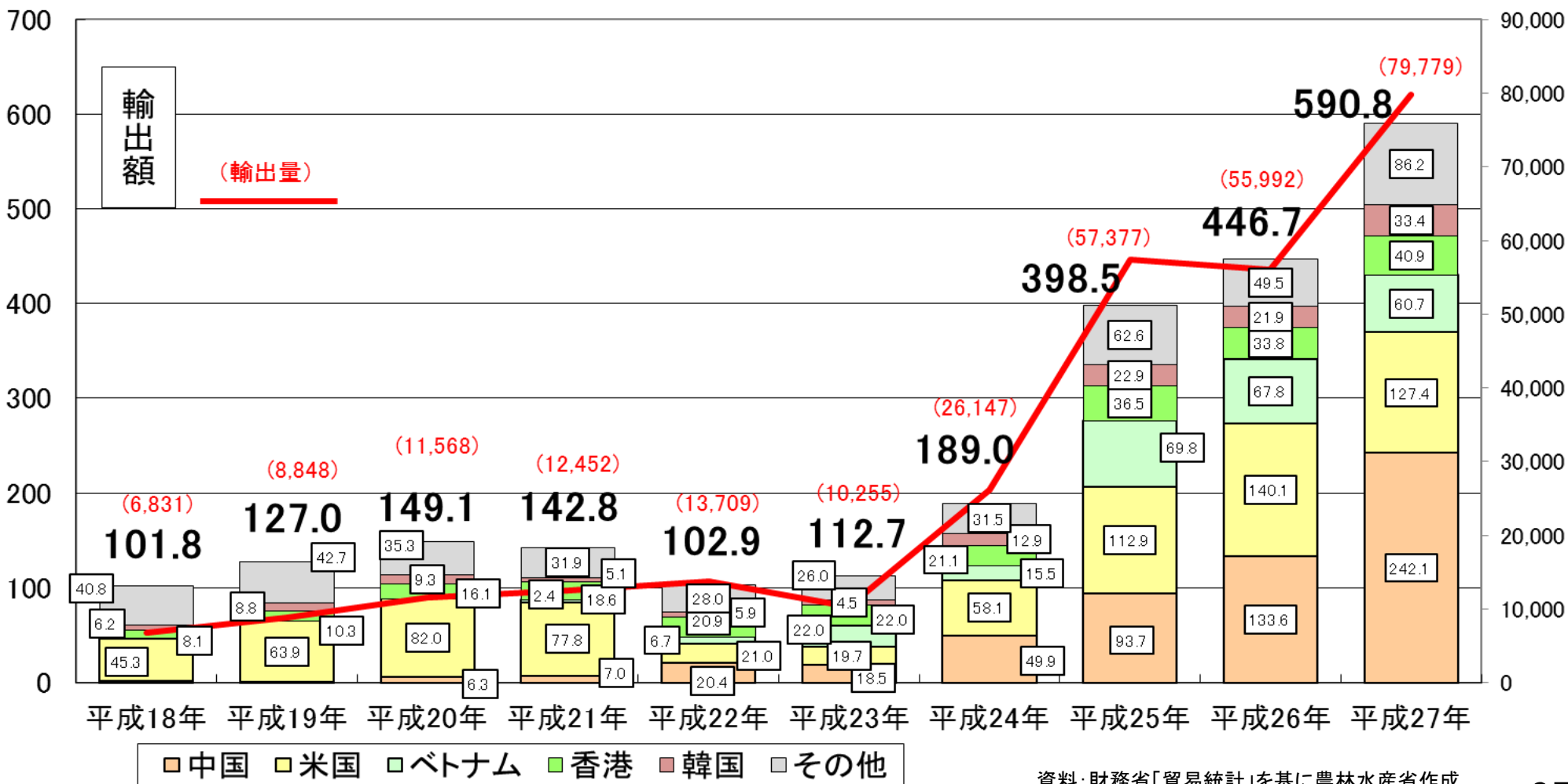


# ホタテ貝の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- ホタテ貝は、我が国の主力輸出産品。
- 近年、輸出が顕著に増加し、中国、米国、ベトナム、香港向けで全体の約8割を占める。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



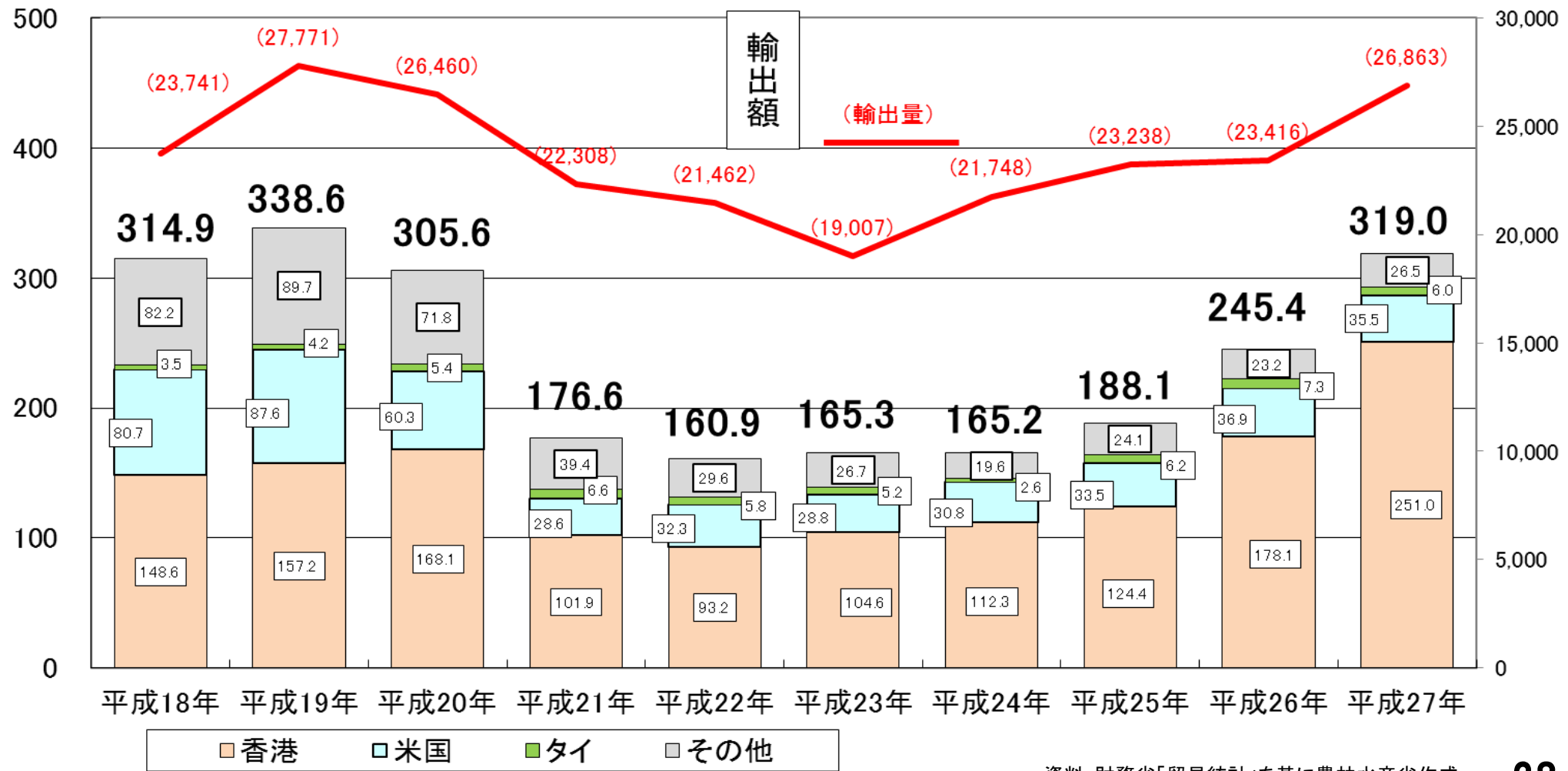
# 真珠(天然・養殖)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

MAFF

● 真珠は、主に香港向けの輸出が大半を占め、輸出は増加している。

(輸出額: 億円)

(輸出量: キログラム)

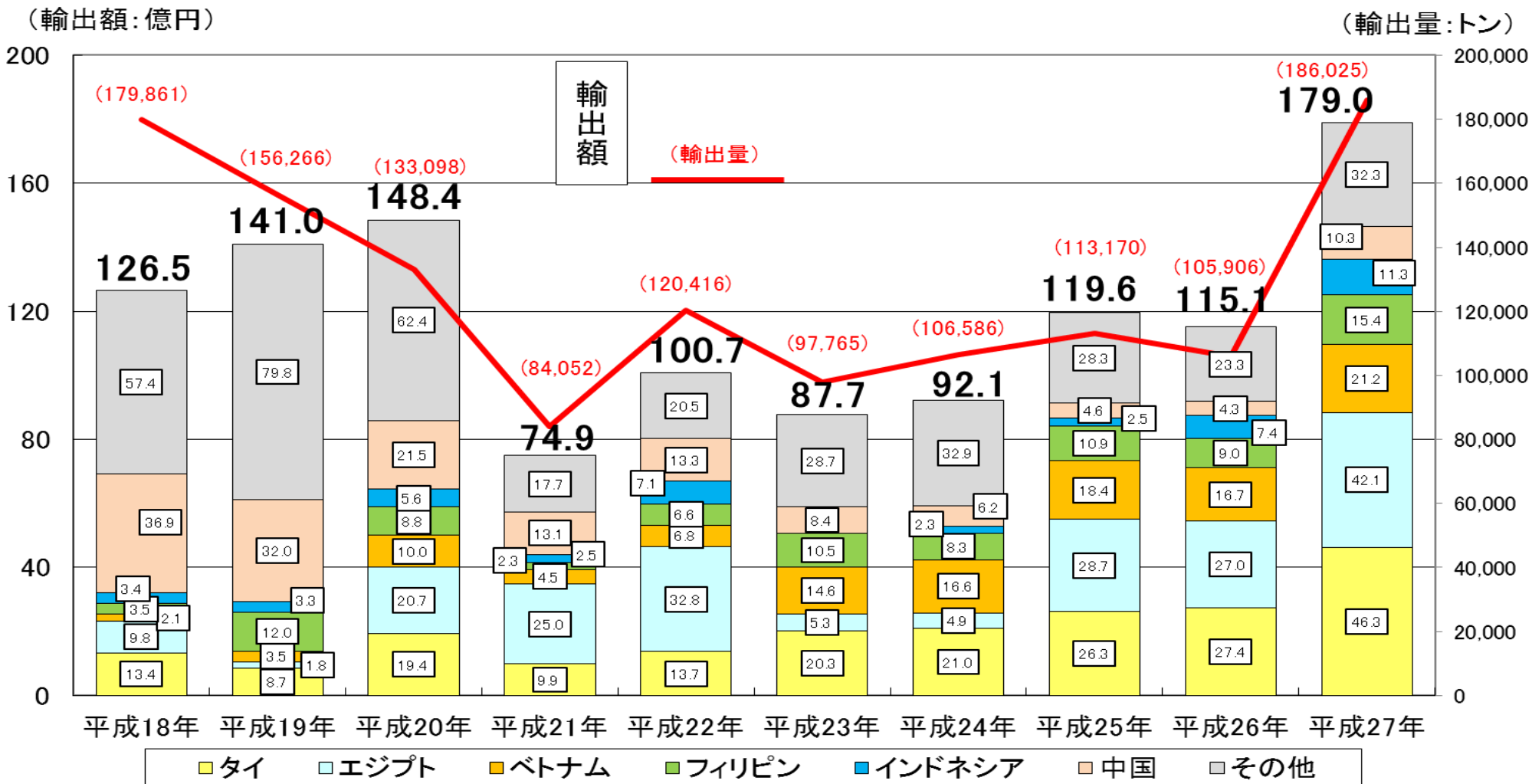


資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



# さばの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● さばは、加工用を中心にタイ、ベトナム、フィリピンなど東南アジア向けの輸出の他、エジプトやガーナなどアフリカ向けにも輸出されている。



※輸出額は、平成22年までは冷蔵及び冷凍品の計。平成23年からは生鮮、冷蔵及び冷凍品の計  
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



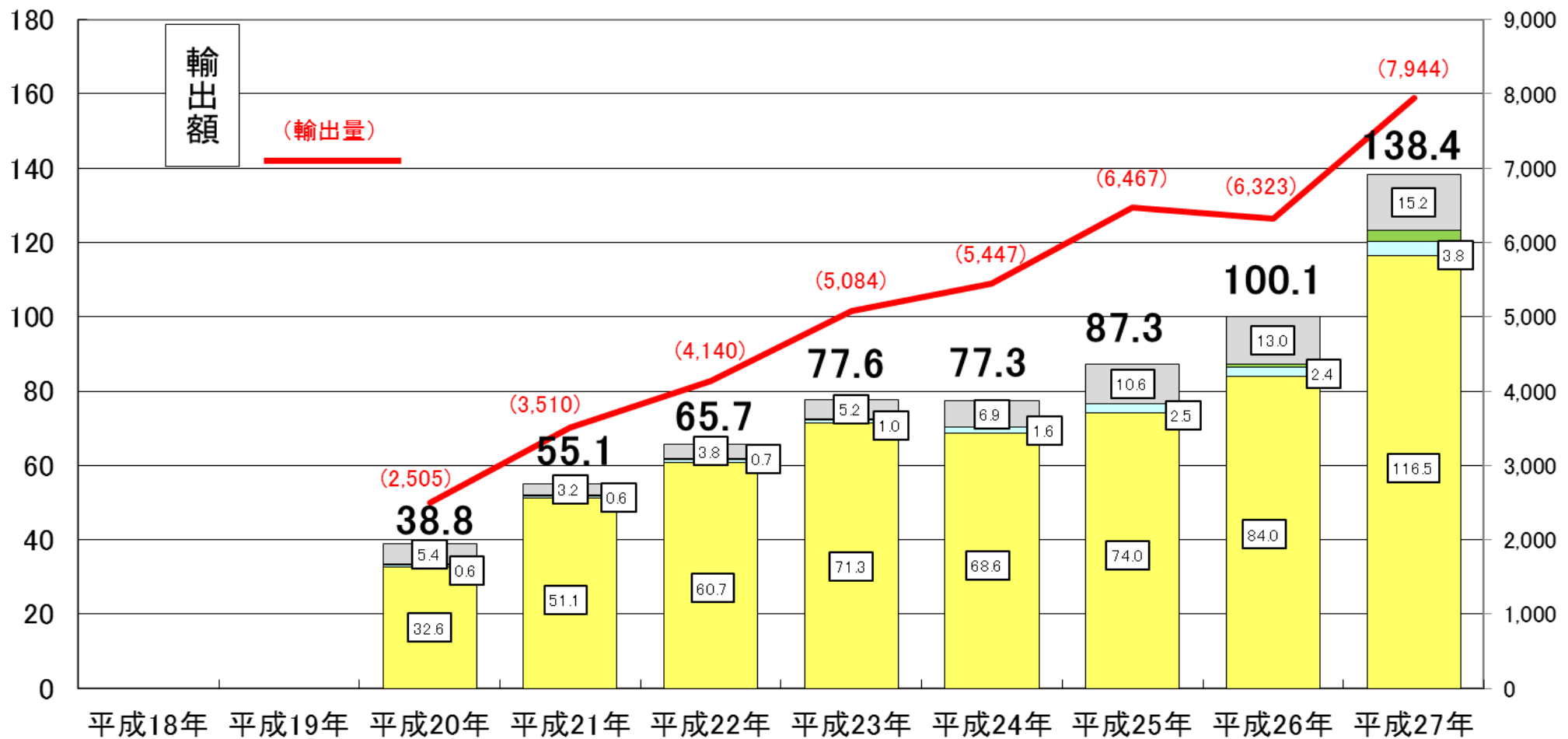


# ぶりの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● ぶりの輸出額は、米国向けを中心に順調に増加。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)



■ 米国 ■ 香港 ■ 中国 ■ その他

※「ぶり(生・蔵・凍)」の輸出額の統計は平成20年から取っている  
資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



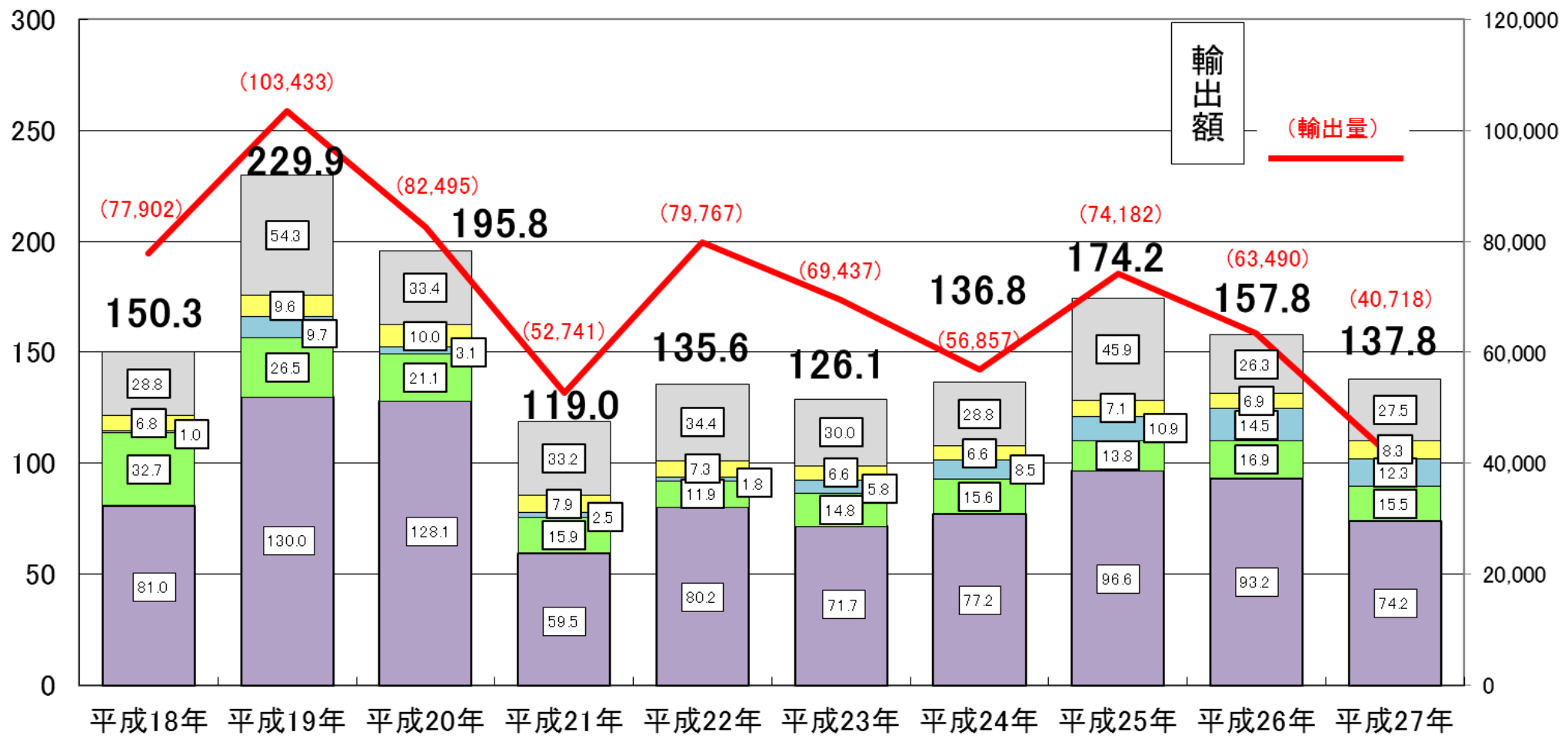
# かつお・まぐろ類の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

MAFF

● かつお・まぐろ類は、近年、水揚量の減少や日本国内向け需要の逼迫により、輸出は減少。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



タイ
  グアム(米)
  ベトナム
  香港
  その他

資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

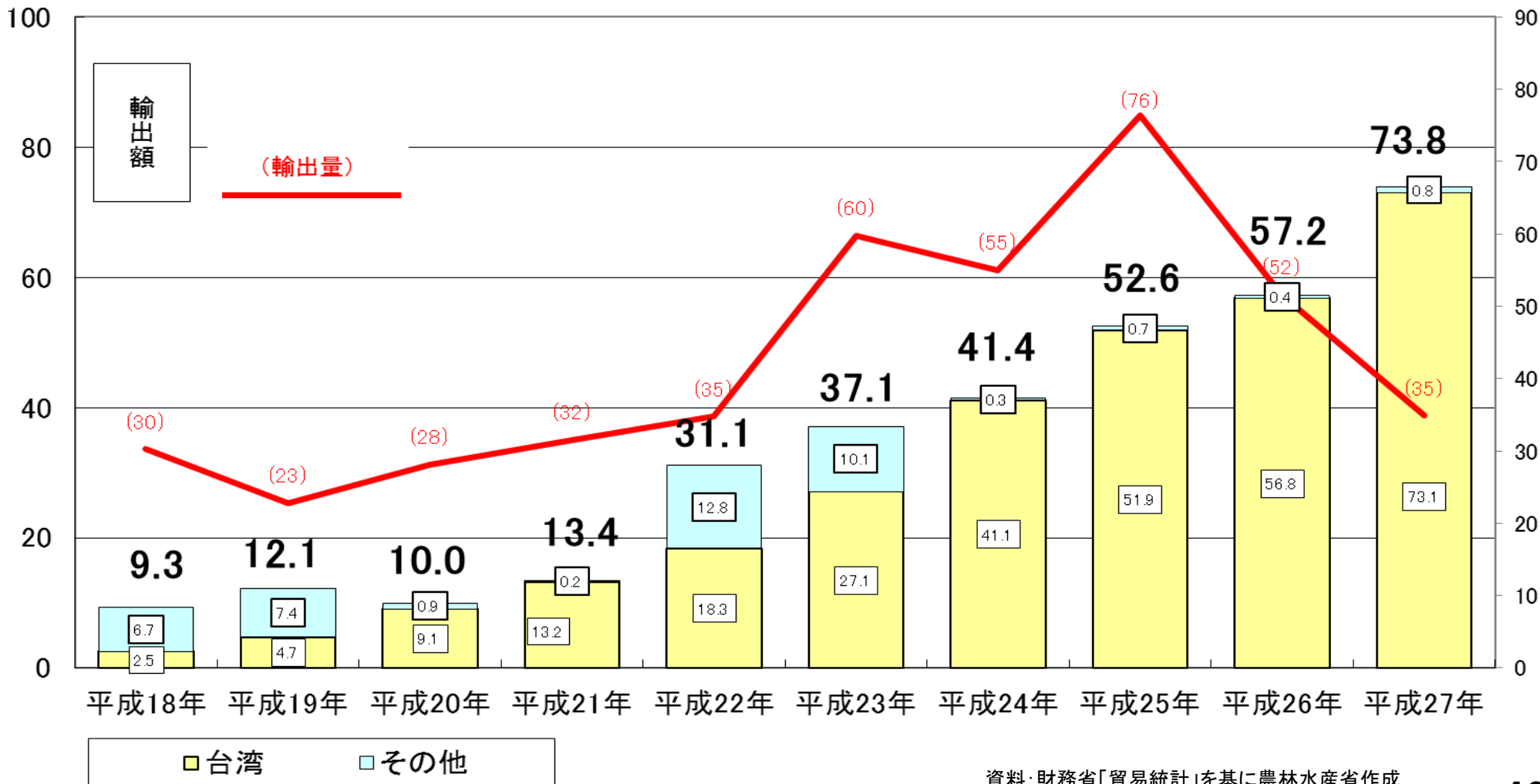


# さんごの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● さんごは、台湾向けが大半で、近年、輸出額は堅調に伸びている。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

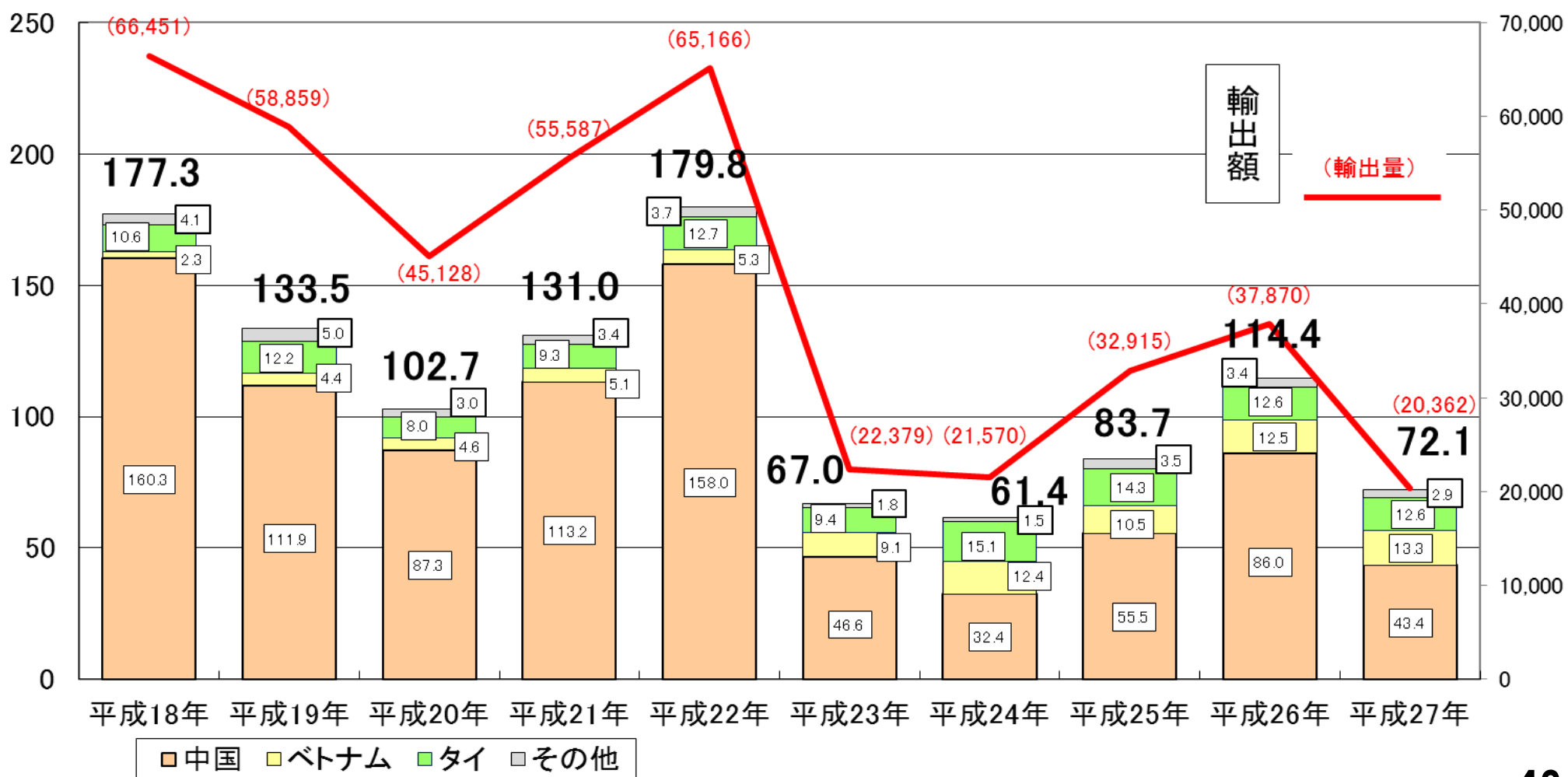


# さけ・ますの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● さけ・ますは、中国、ベトナム、タイ向けが大半。輸出額は漁獲動向等の影響を受けて、大きく増減。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

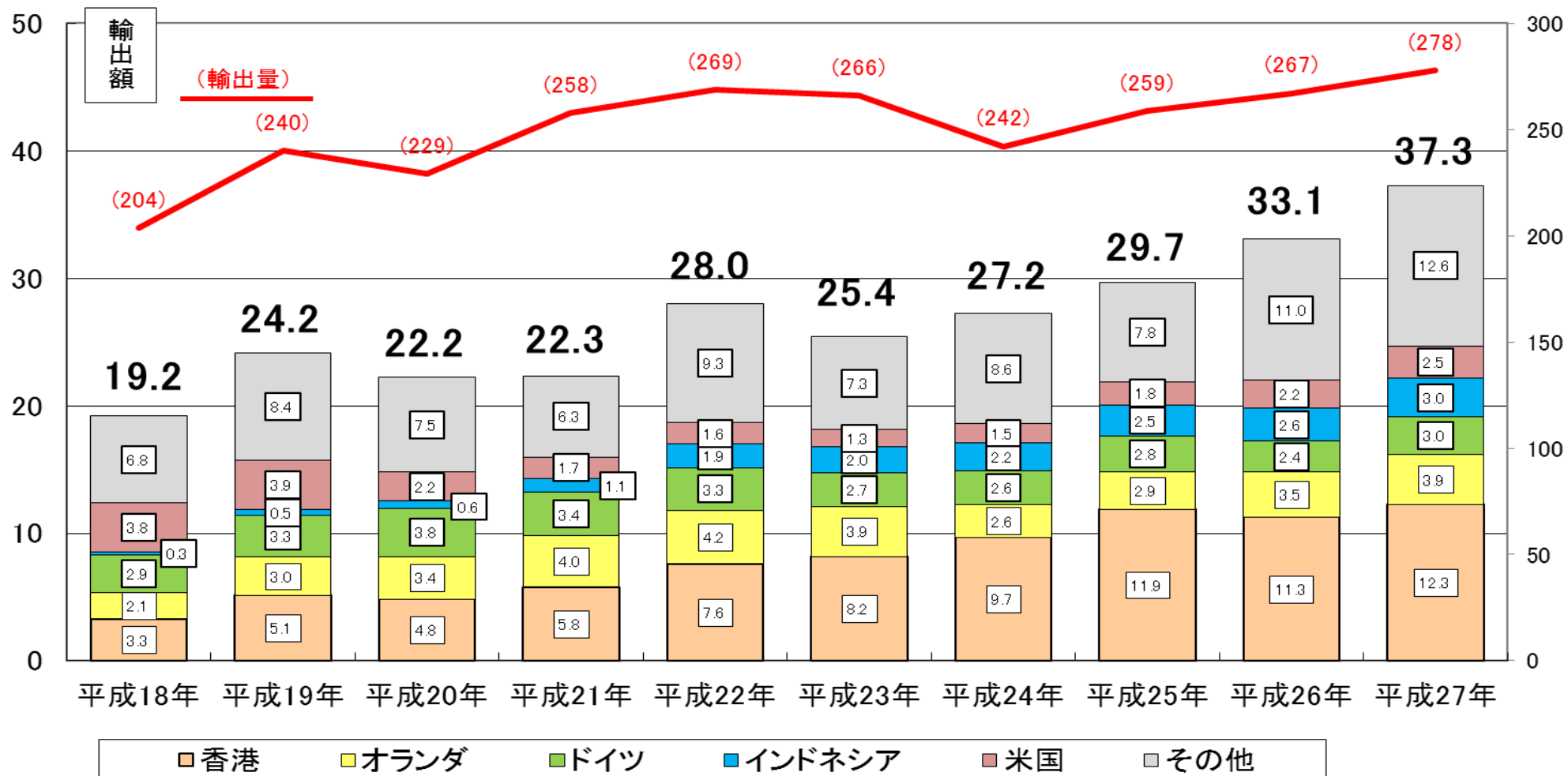


# 錦鯉等観賞用魚の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- 錦鯉等の鑑賞用魚は、欧米やアジアの富裕層を中心に増加傾向。
- 盆栽と並んで、日本文化の象徴として楽しまれている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



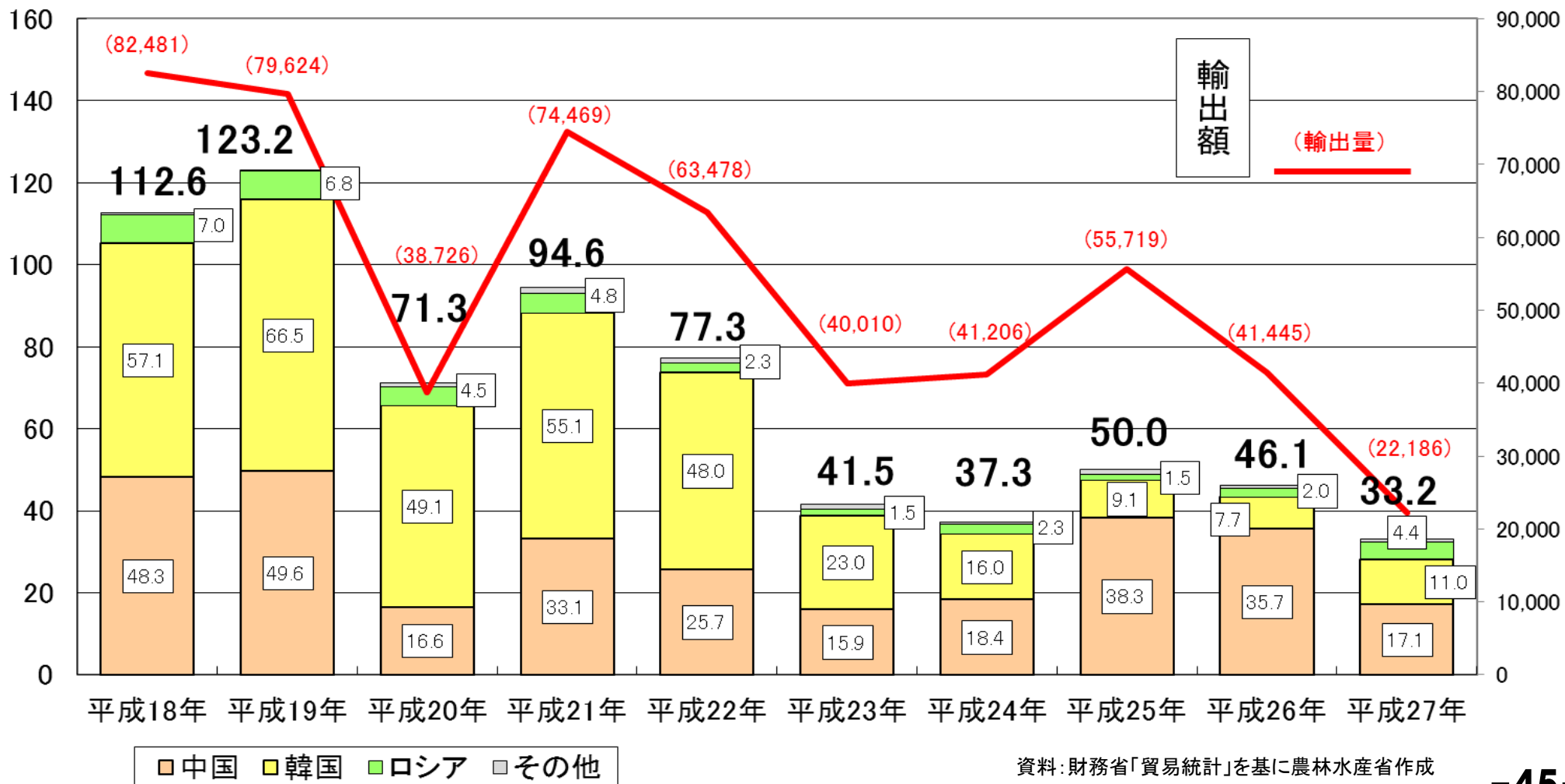


# すけとうたらの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● すけとうたらの輸出は、中国、韓国向けが大半。東日本大震災等の影響により、輸出額が大きく減少。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



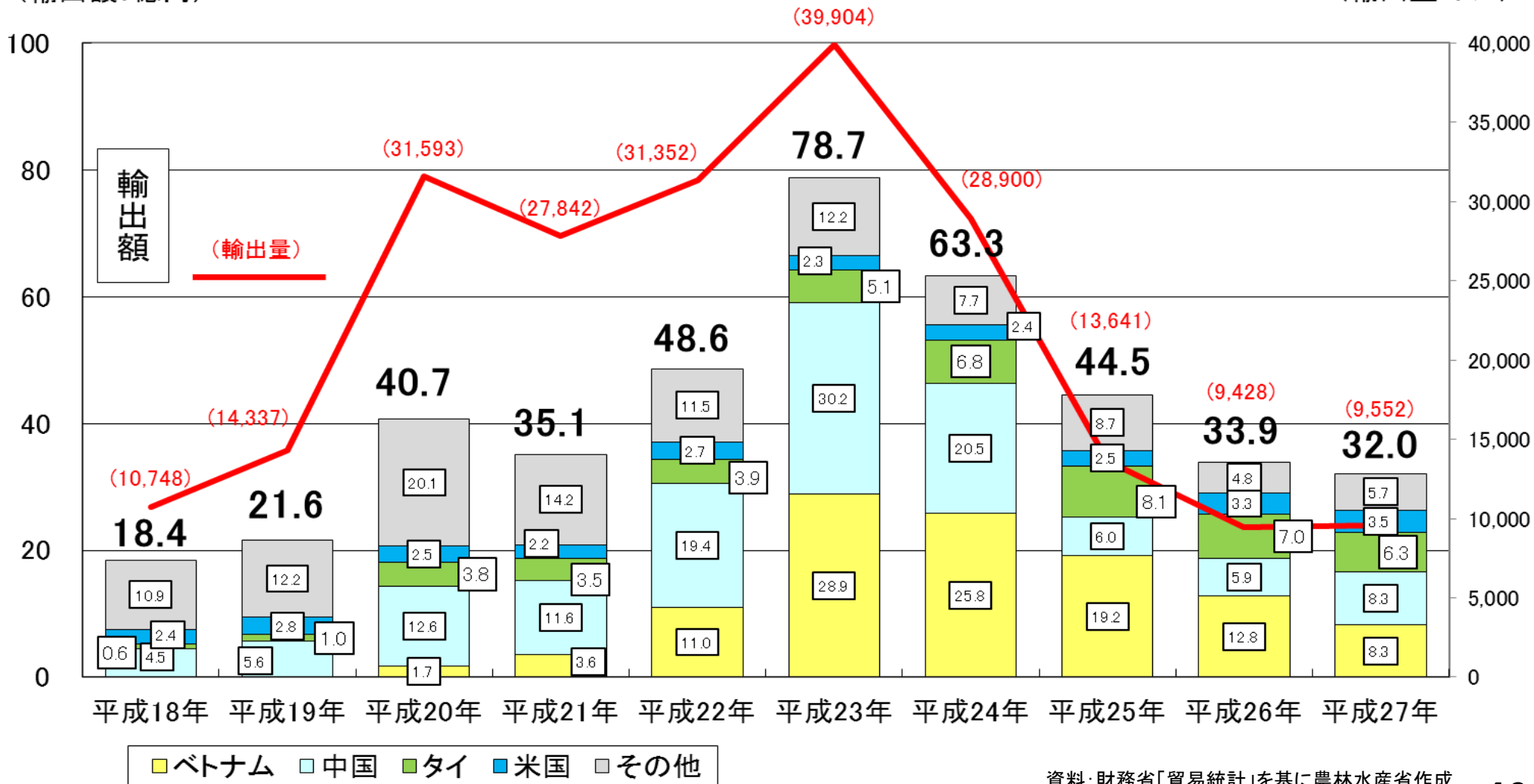


# いかの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- いかの輸出額は近年減少傾向。
- 主に加工原料用としてベトナム、中国、タイ向けに輸出。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



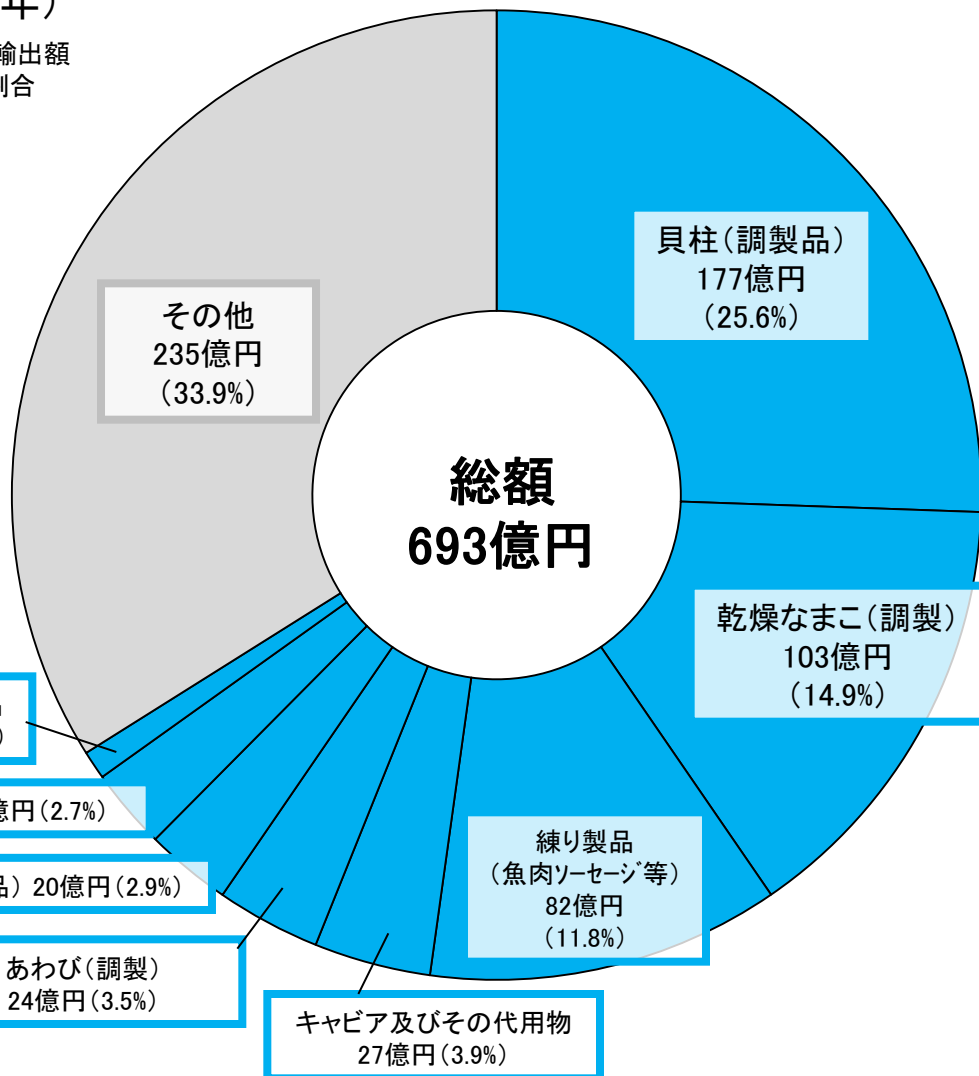
# 水産調製品の内訳

●水産調製品の品目別内訳をみると、貝柱、乾燥なまこ、練り製品などの割合が多い。

(平成27年)

※カッコ内は輸出額に占める割合

(単位:億円)



品目名	平成26年	平成27年	増減率
貝柱(調製品)	145.3	177.2	22.0%
乾燥なまこ(調製)	103.8	103.1	▲0.7%
練り製品(魚肉ソーセージ等)	69.6	81.7	17.3%
キャビア及びその代用物	23.5	27.0	15.0%
あわび(調製)	20.4	24.1	18.4%
真珠(製品)	14.4	19.9	38.6%
魚等缶詰	23.4	18.6	▲20.2%
かに調製品	7.1	6.6	▲7.3%
その他	215.1	235.2	9.4%
<b>水産調製品</b>	<b>622.5</b>	<b>693.5</b>	<b>11.4%</b>

※「貝柱(調製品)」は、平成24年の品目コード新設により、HS160559100及びHS160552000を合計したもの

※「キャビア及びその代用物」:いくら、たらこなど



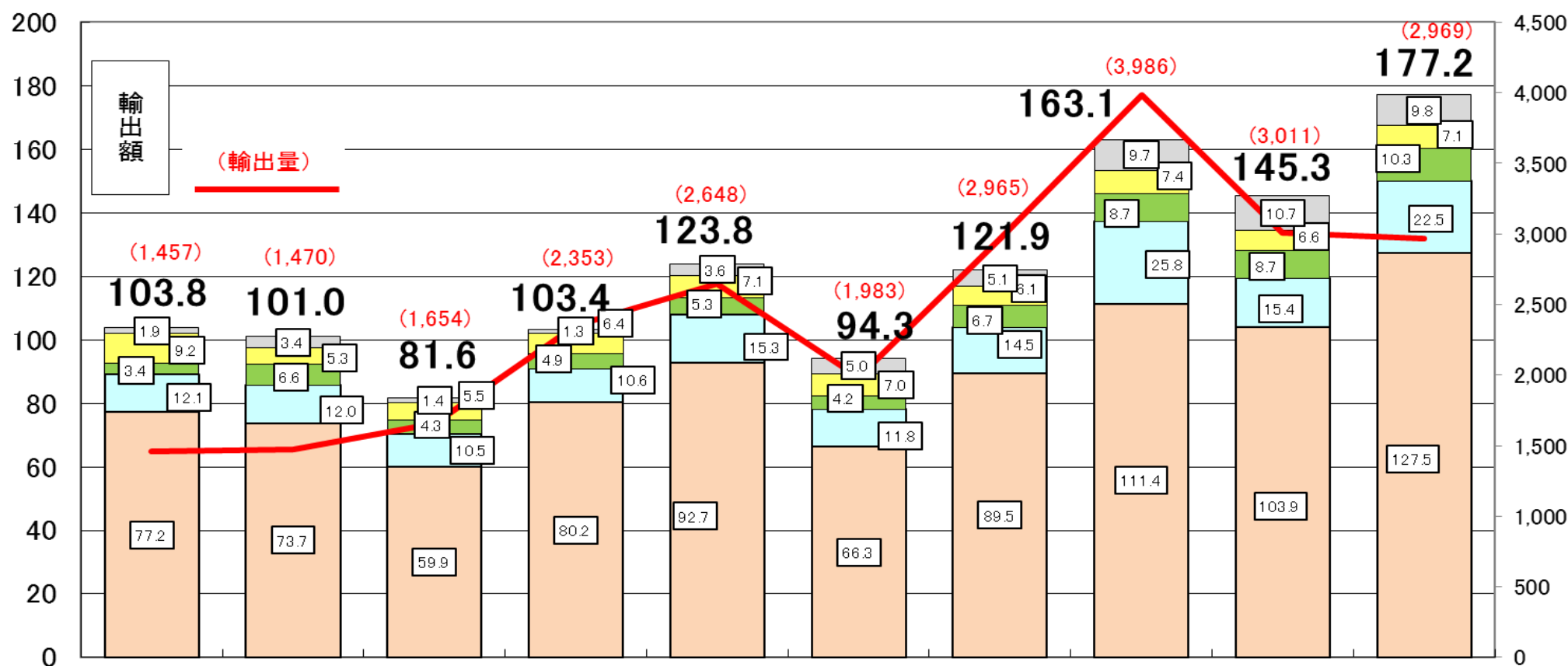


# 貝柱(調製品)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- ホタテ貝の干し貝柱が中心であるとみられ、中華料理の食材として使われている。
- ほとんどが香港や台湾に輸出されている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成26年 平成27年

香港
  台湾
  シンガポール
  米国
  その他

※平成24年以降の輸出額は、HS160559100及びHS160552000を合計したもの



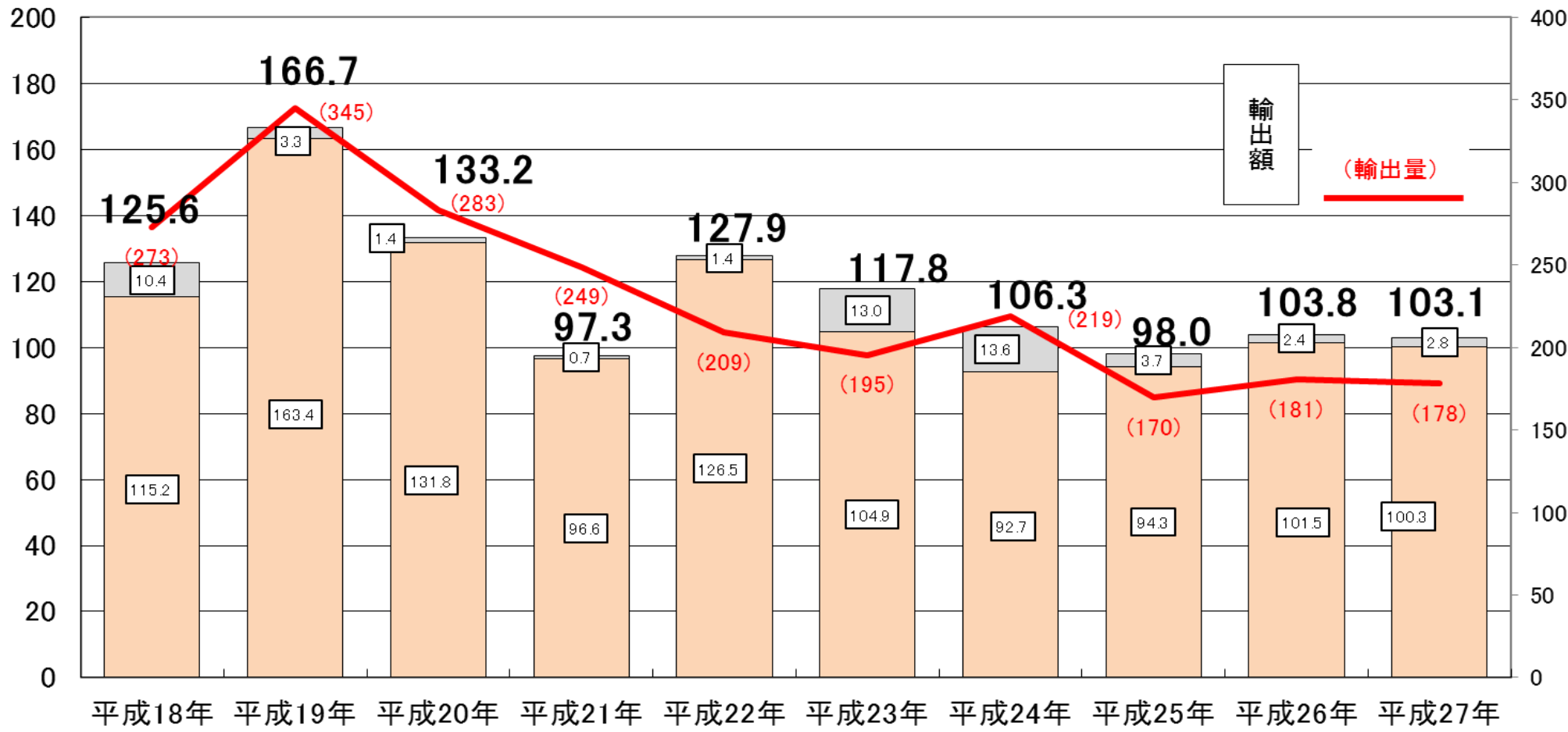
# 乾燥なまこ(調製)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

MAFF

- 乾燥なまこは、「黒いダイヤ」と称され、高級食材として人気。
- ほとんどが香港に輸出されているが、近年は減少傾向。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)



■ 香港 □ その他

資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

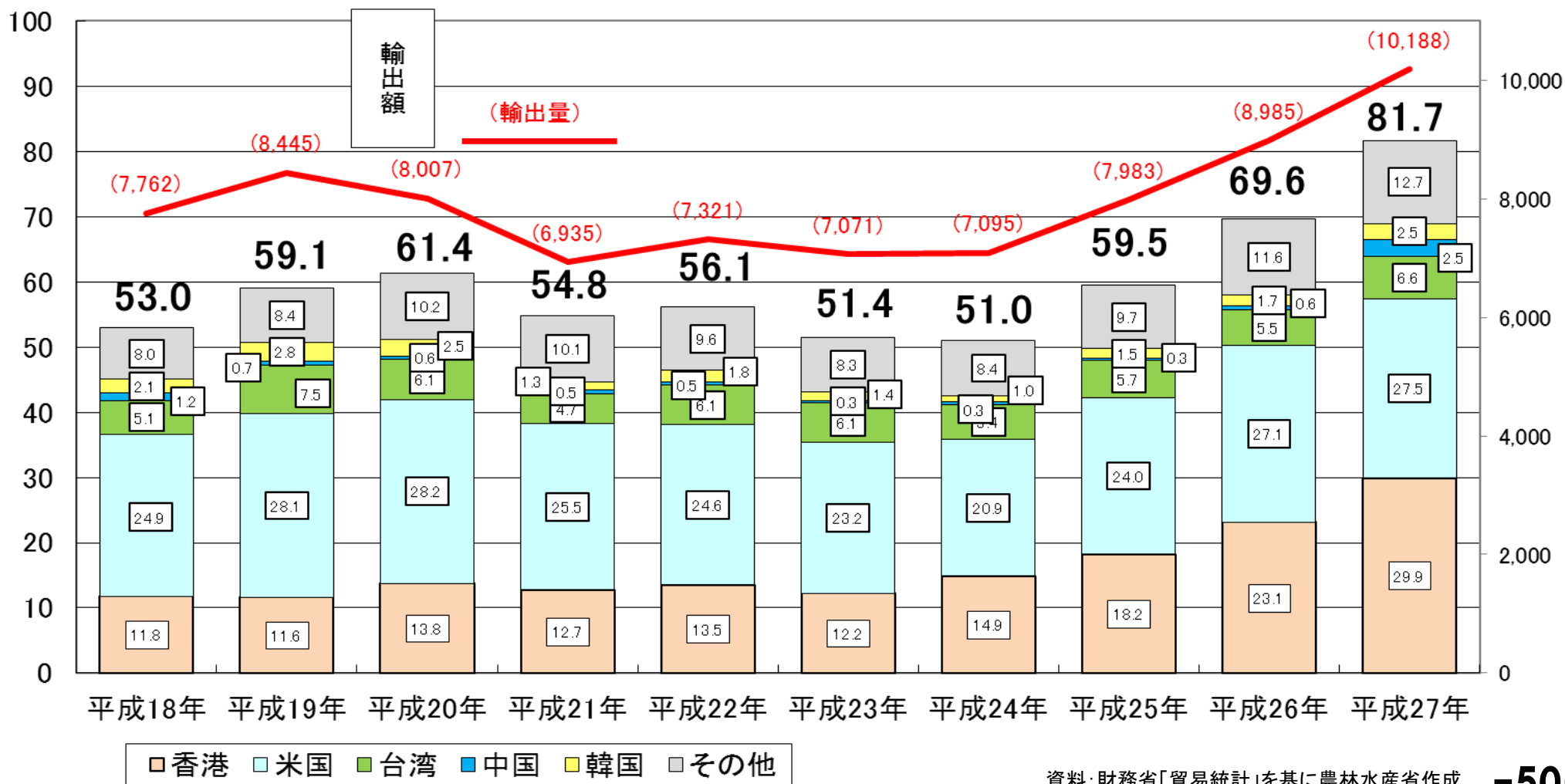


# 練り製品(魚肉ソーセージ等)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● 香港、米国、台湾向けが全体の約8割を占めており、近年は増加傾向。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)





# あわび(調製)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● 高級中華料理の食材として人気のあわび(調製)は、ほとんどが香港に輸出されている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)

